

談話室

SPring-8 現地見学会に参加して

遊佐 齊

東京大学物性研究所

去る、平成5年5月28日、播磨科学公園都市の先端科学技術支援センターで行われたSPring-8利用者懇談会設立総会に伴って、SPring-8建設現場での見学会が催された。総会が行われた姫路工大理学部横の先端科学技術支援センターから、バスに乗ることわずか数分、ほどなく、SPring-8の加速器リング本体の建設現場に到着した。建設現場は、森に囲まれた台地にあったが、敷地面積は大きく広々としている。

運転が開始されるのが4~5年先と聞かされていたので、実際に来て見るまでは、どれくらいの建設段階にあるのか皆目検討がつかなかった。しかし、その建物の完成度にまず驚き、さらに建物内にところ狭しと並んでいる配置予定のマグネット類を見て、きわめて順調に建設が進んでいるということが印象づけられた。

建物内は、高エネルギー研究所のPhoton Factoryのそれに比べてリングの曲率が大きなせいか直線的にみえ、スペースも、これはまだビームラインやハッチがないというせいかもしれないが、比較的ゆったりしているように思えた。また、実験ホールの外側にリングと同心円状に実験準備室

や休憩室がいくつかに仕切られて並んでおり、各々のビームラインに機能的に配置してあることが印象的であった。そして、それらの実験準備室に採光用の窓ガラスが数多くとりいれられていることにも細かい配慮が感じられた。今回は、我々ユーザーが普段立入禁止の加速リング内に入ることができ、放射光の取り出し口の上流側からビームラインの方向を眺めることができたのは貴重な体験であった。

今回の見学会は、SPring-8利用者懇談会設立総会に引き続いての会ということで、各利用サブグループからの参加者が、つまり、実際の将来のユーザーとして見学に参加した方が多かったわけであり、ユーザー側からの質問や要望、例えば共同利用実験のための宿泊施設は近いほうがよいとか、実験ホールの床の強度は搬入装置に対して十分な強度か否か、あるいは、装置の搬入経路は十分確保されているか、などの実用上の議論があちこちで交わされていた。このことは、我々ユーザー側の認識が見学前に比べ格段に深まってきたことの証拠であり、その意味でも今回の見学会は意義深いものであった。

